

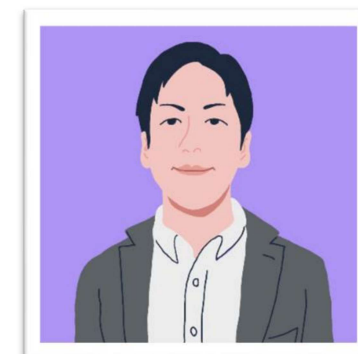
The background features a stylized landscape. The upper portion shows rolling green hills in various shades of green, from light to dark. The lower portion depicts blue waves in various shades of blue, from light to dark, with small white circles representing bubbles or foam.

地方での大規模災害のリスクと 復興に向けたポイントについて

令和7年1月

石川県

佐藤 晋太郎



- 2013年 経済産業省に入省。地域資源や地域経済を扱う部署を歴任
 - 新エネルギー対策課（再エネの推進、固定価格買取制度・税制改正）
 - クールジャパン政策課（日本文化の海外市場展開、クールジャパン機構の運営監督）
 - 地域経済産業政策課（「まちの人事部」施策の立案、中堅企業支援）
 - 中小企業庁総務課（持続化／家賃支援給付金、一時／月次／事業復活支援金）
- 2020年 米コーネル大学 地域科学修士 修了（地域経済分析（GIS、産業連関など））
- 2022年 京都府京丹波町 政策アドバイザーとして兼業開始（ブランディング、関係人口、地域通貨、官民協創 など）
- 2022年 石川県庁 産業政策課長に出向（石川県産業振興指針の策定、スタートアップ支援 など）

2024年1月1日 能登半島地震発災

1月3日～

能登半島地震対応 県物資チームリーダー
（食料や生活必需品等の調達・輸送）



4月1日～

創造的復興推進課長
（石川県創造的復興プラン、官民連携復興センター など）



1. 被災状況（地方災害のリスク事例）
2. 復旧状況
3. 「創造的復興」に向けて

1. 被災状況（地方災害のリスク事例）
2. 復旧状況
3. 「創造的復興」に向けて

令和6年能登半島地震の概要

■発生時刻

令和6年1月1日(月) 16時10分頃

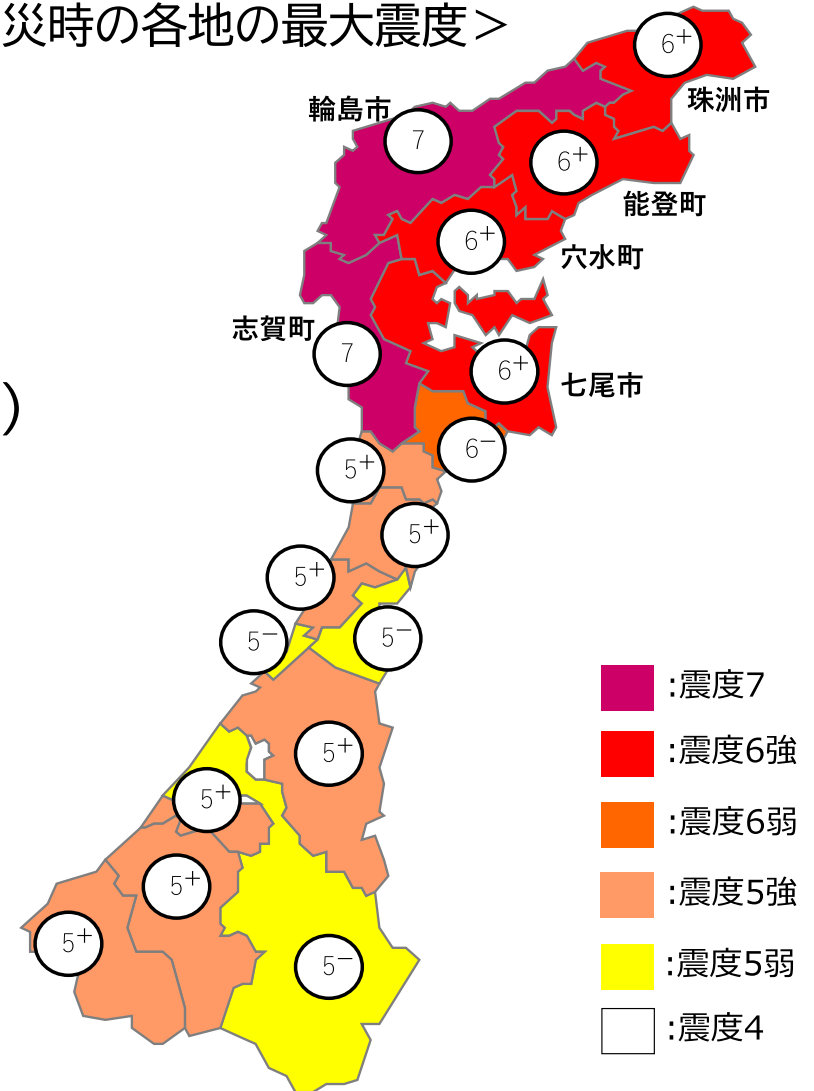
■震源地

石川県能登地方（震源の深さ 約16 km）

■地震の規模

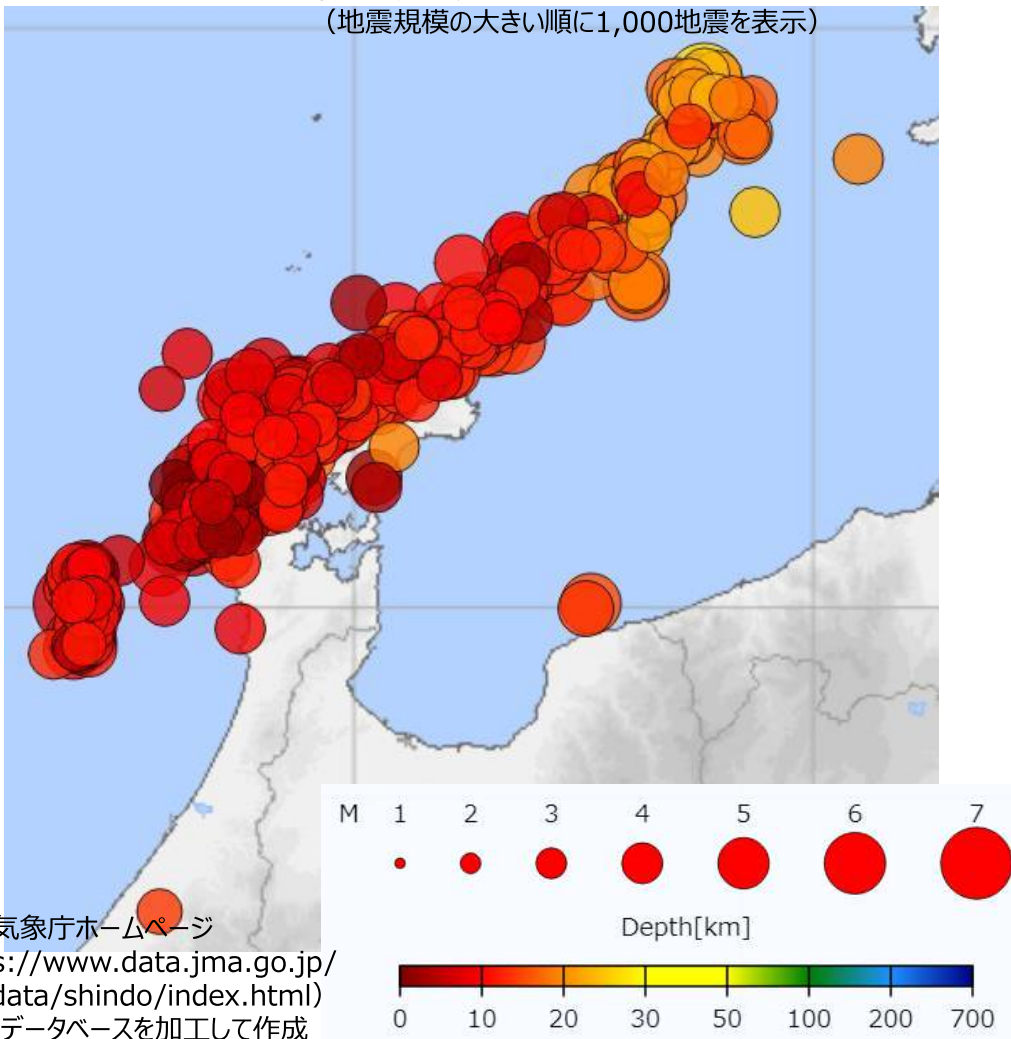
マグニチュード7.6

< 発災時の各地の最大震度 >

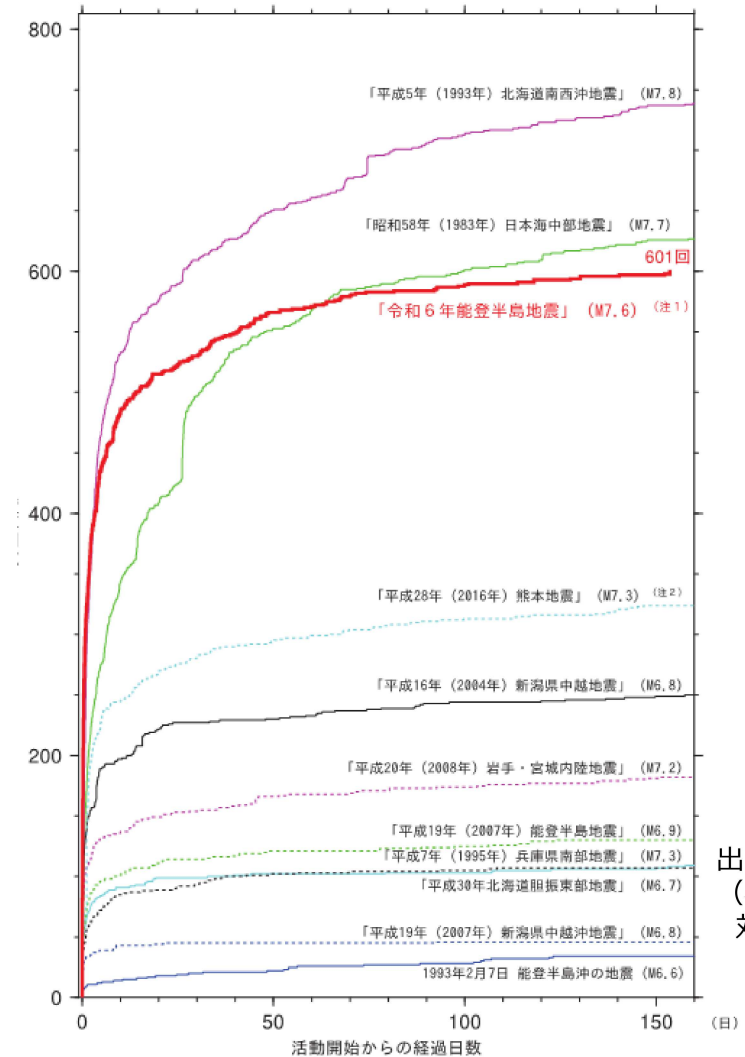


令和6年能登半島地震の概要

＜震央分布図＞ 令和6年1月1日～12月22日、
最大震度1以上
(地震規模の大きい順に1,000地震を表示)



＜地震回数比較＞ マグニチュード3.5以上



令和6年能登半島地震の被害

<土砂崩れ>



穴水町川島地内

<津波>



能登町白丸地内

<火災>



輪島市河井町地内

<地盤隆起>



輪島市門前黒島地内

<家屋倒壊>



輪島市河井町地内

<液状化>



内灘町西荒屋地内（液状化）

令和6年奥能登豪雨の概要

< 9月21日の各地の警報・注意報 >

■発生日

令和6年9月21日(土)

■大雨特別警報

輪島市、珠洲市、能登町

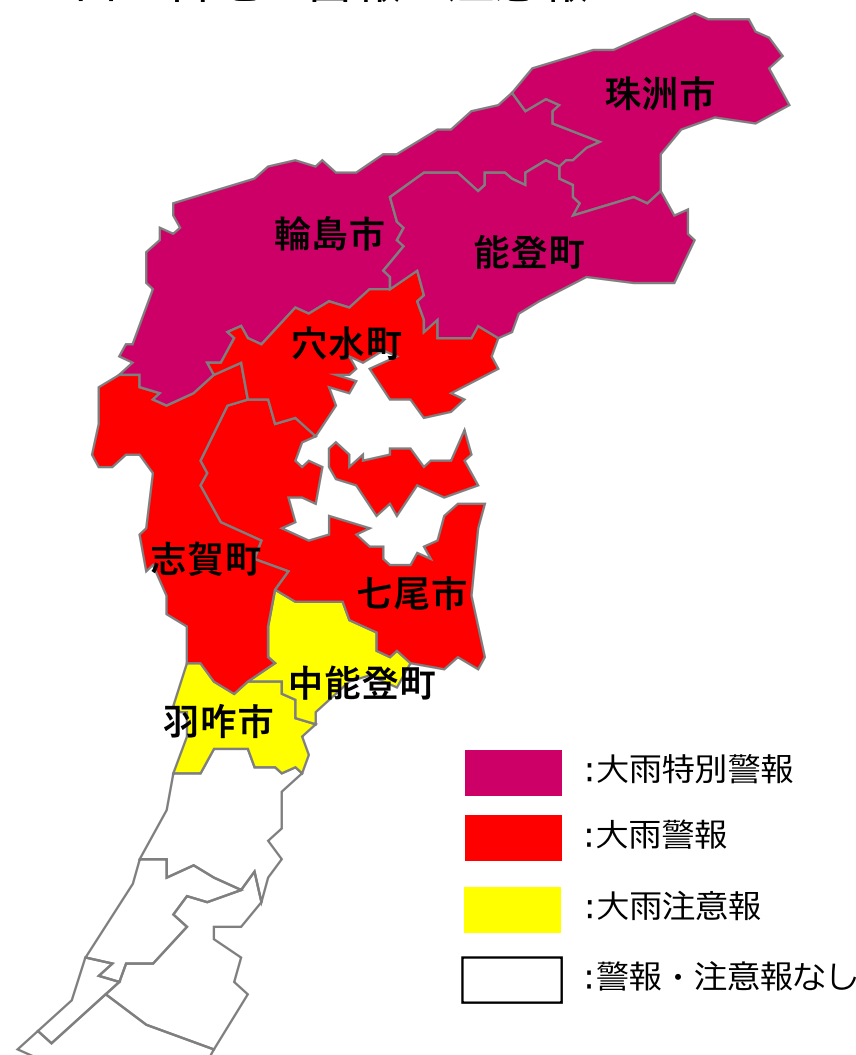
- 発表 21日10:50
- 解除 22日10:10

■降水量（アメダスデータ）

輪島市 合計 362mm、最大 121mm/h

珠洲市 合計 272mm、最大 85mm/h

※能登町は観測地点なし



豪雨被害の様子



令和6年能登半島地震と奥能登豪雨の被害状況

(令和6年12月24日時点)

	能登半島地震	奥能登豪雨
人的被害		
死者	483名	16名
行方不明者	2名	0名
負傷者	1,254名	47名
住家被害		
全壊	6,077棟	110棟
半壊	18,328棟	576棟
一部破損	77,990棟	119棟
床上浸水	6棟	53棟
床下浸水	5棟	770棟

輪島市	地震	豪雨
人的被害	699名	46名
住家被害	10,525棟	1,089棟

珠洲市	地震	豪雨
人的被害	395名	12名
住家被害	5,573棟	281棟

能登町	地震	豪雨
人的被害	105名	5名
住家被害	5,754棟	254棟

穴水町	地震	豪雨
人的被害	296名	0名
住家被害	3,340棟	0棟

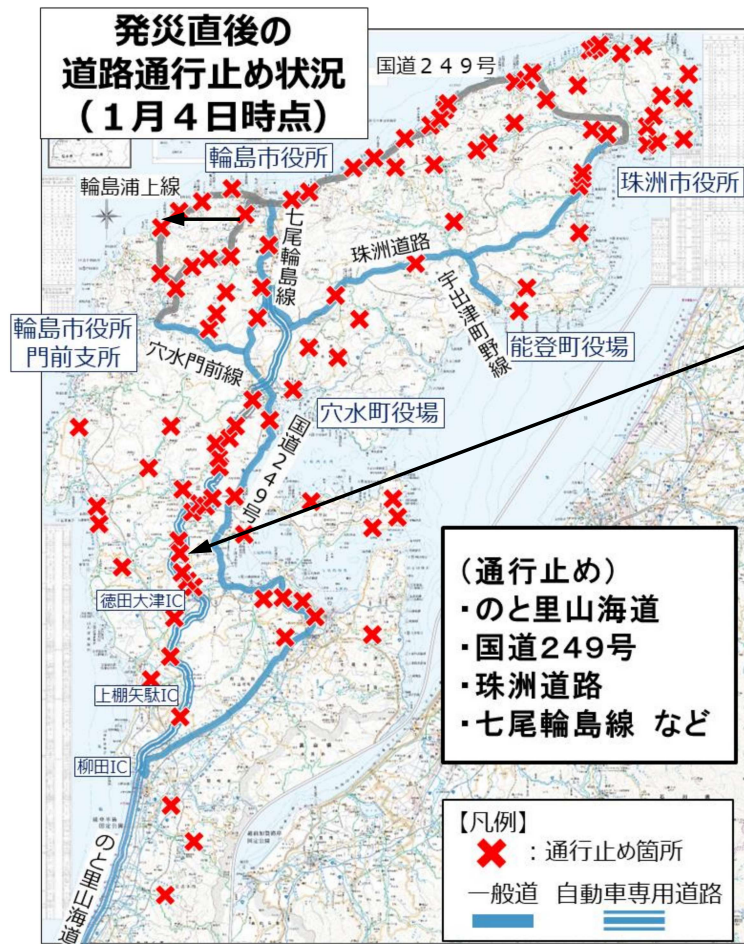
志賀町	地震	豪雨
人的被害	121名	0名
住家被害	7,451棟	0棟

七尾市	地震	豪雨
人的被害	75名	0名
住家被害	16,477棟	3棟

その他地域	地震	豪雨
人的被害	48名	0名
住家被害	53,286棟	1棟

被害の特徴①： インフラの途絶と集落の孤立

道路法面や路肩の崩壊など大きな被害が発生 → 通行止め箇所【最大】42路線・87箇所(1/4時点)
奥能登4市町の孤立集落【最大】24地区・3,345人(1/8時点)



道路崩壊 (のと里山海道)



自衛隊ヘリで救助される被災者
(輪島市南志見小学校)



渋滞 (珠洲道路)



自衛隊の船による車両や機材の運搬
(輪島市大川浜)

インフラの復旧の例

隆起の海岸、迂回路開通 輪島・国道249号「白米千枚田」近く（2024年5月2日 北國新聞）



能登半島地震による土砂崩れで寸断された国道249号のうち、大規模地滑りで通行できなくなった輪島市野田町の約800メートル区間で2日、隆起した海岸に造った迂回（うかい）路が開通した。輪島市東部地区では**地震後、市街地まで1時間から1時間半かかっていたが、30分程度に大幅短縮**となり、道路説明会に集まった住民約50人が早速、迂回路を通過して市街地に向かった。

国土交通省能登復興事務所によると、通行可能になった区間は国名勝「白米千枚田（しろよねせんまいだ）」の近く。道路幅は約5メートルで、すれ違いできるように待避所も設けた。**新設した約400メートルは、隆起した海岸の岩礁を埋め立てて道路とする異例の工法**が採用された。

復旧支援の大型トラックの通行も可能で、輪島東部の南志見、町野地区の復旧加速も期待できる。当面は工事業者や地元住民の車両に限り通行できる。一般車両の通行を可能とする見通しは立っていない。

被害の特徴②： 過疎・高齢社会での被災

人口変化(2018年時点での推計値)

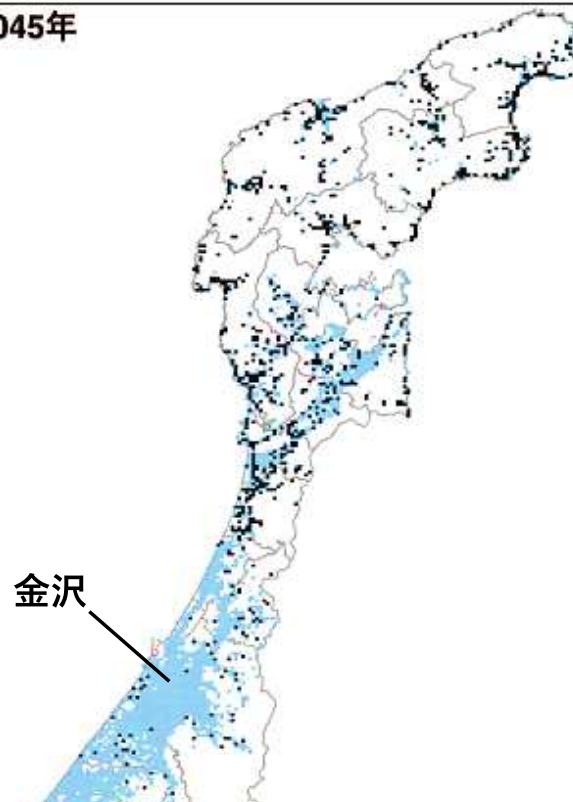
500mメッシュで人口10人以上の箇所のみ表示

■ 高齢化率50%以上、 ■ 高齢化率50%未満

2020年



2045年



(参考) 被災時の高齢化率

- 2011年東日本大震災（沿岸市町村）
15%～38%(岩泉町)
- 2016年熊本地震（被災市町村）
24%～36%(阿蘇市、甲佐町)
- 2024年能登地震（奥能登6市町）
39%～52%(珠洲市)

過疎・高齢社会での復興における課題の例

H19能登半島地震

高齢化率（H19.3輪島市） 35.0%

住宅被害（半壊以上）計2,426棟
（全壊684棟）



住宅再建手法（意向調査を基に推計）

自宅再建
約2,000
（83%）

民間賃貸等
約340
（14%）

災害
公営
60
（3%）

↑
全壊戸数の8.8%

H28熊本地震

高齢化率（H28.10熊本市） 24.8%

住宅被害（半壊以上）計39,326棟
（全壊8,412棟）



住宅再建手法（意向調査を基に推計）

自宅再建
約23,000
（58%）

民間賃貸等
約15,000
（38%）

災害
公営
1,715
（4%）

↑
全壊戸数の20.4%

令和6年能登半島地震

高齢化率（R5.10輪島市） 49.0%

住宅被害（半壊以上）計22,141棟
（全壊5,910棟）※8/21現在



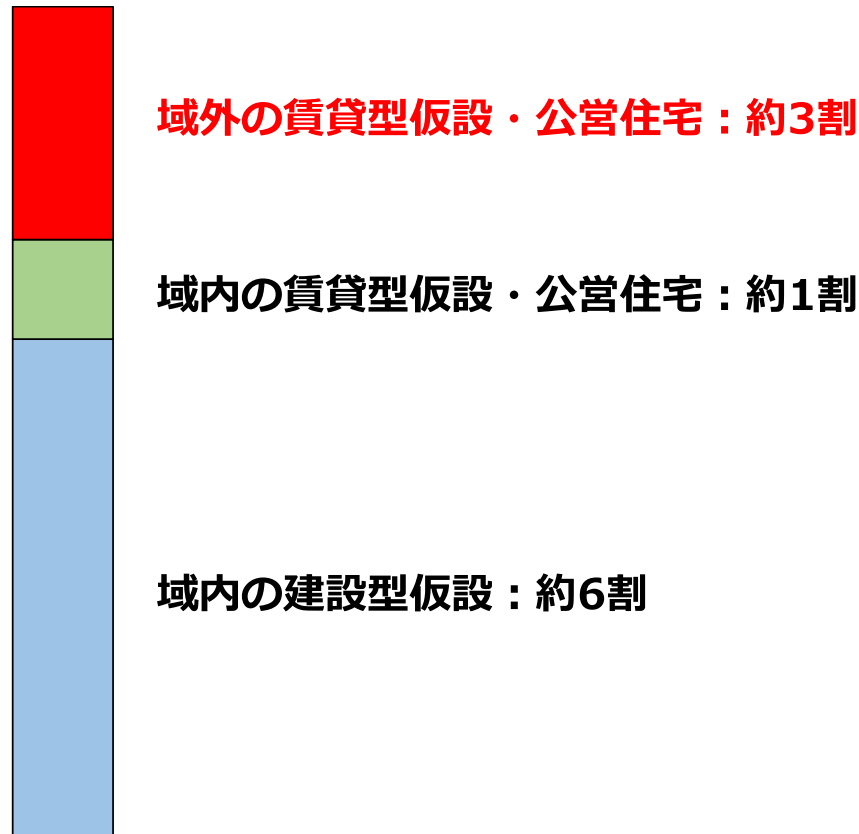
能登の現状

- ・高齢化率が高い
（自宅再建困難な方が多い）
- ・既存民間賃貸住宅が少ない

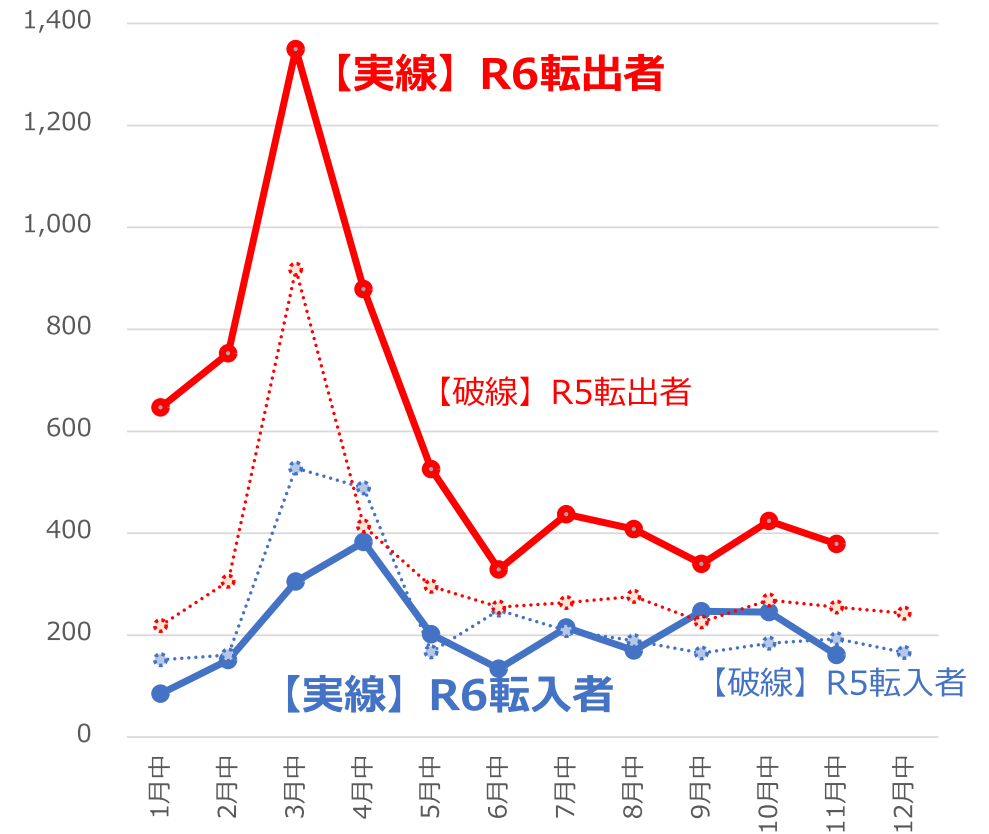
被災した自宅を公費解体し、
災害公営住宅に入居する方が相当増える可能性
（復興のコストが増加）

被害の特徴③： 大勢の広域避難者が発生

■仮設住宅の入居状況（R7.1時点）



■転出者数・転入者数（能登6市町）



被害の特徴④： 帰省者や観光客の存在

令和5年5月5日
(ゴールデンウィーク)

能登半島地震：震度6強

令和6年1月1日
(元日)

能登半島地震：震度7

令和6年9月21日
(シルバーウィーク)

奥能登豪雨：121mm/h



- ・「どこに誰がいるのか」の把握が困難。
- ・平時よりも人数が多く、しかも地元の地理や環境に慣れていない。

(参考) 石川県地域防災計画（地震災害対策編）のシナリオ

●これまでの想定シーン

・中央防災会議（南海トラフ巨大地震）の被害想定と同様の複数の季節と時間帯を前提に被害想定を実施

- ① 冬・朝5時：就寝中の被災者が多く、圧死の危険性が高い
- ② 秋・昼12時：外出者が多く、自宅外で被災する危険性が高い
- ③ 冬・夕18時：火気使用が最も多く、出火の危険性が高い



●今後追加予定の想定シーン

・帰省者や観光客等が多い特定の状況

- ④ 正月・夕18時：帰省者が多く、平時よりも県内の滞在者が多い
- ⑤ GW・昼12時：観光客が多く、平時よりも県内の滞在者が多い

1. 被災状況（地方災害のリスク事例）
2. 復旧状況
3. 「創造的復興」に向けて

復旧・復興の進捗状況 1

避難所

1次避難所	(地震) 約 34,000 人
	(豪雨) 約 1,500 人
広域避難所	約 1,000 人
1.5次避難所	約 500 人
2次避難所	(地震) 約 5,000 人
	(豪雨) 約 60 人
県外公営住宅	約 700 人
みなし福祉避難所	約 1,600 人

最大

現状 (12/26時点)

解消に向けて

(地震) 約 27 人	...	避難者の状況に応じた個別支援
(豪雨) 約 244 人	...	応急仮設住宅の建設促進、自宅修理・再建支援
約 14 人	...	避難者の状況に応じた個別支援
解消	9月末解消	—
(地震) 解消	12/22解消	—
(豪雨) 約 35 人	...	応急仮設住宅の建設促進
約 497 人	...	避難場所としての取扱いを年内で終了、帰還支援を継続
約 344 人	...	被災施設の再開支援、ケアマネジャーと連携した避難先・受入先施設のマッチング支援等

応急仮設住宅

必要戸数

(地震)	6,882 戸
(豪雨)	286 戸

現状

(地震)	全戸完成済 ※12/23
(豪雨)	全戸着工済



三崎町第一団地 (珠州市)
プレハブ(従来型)
5,565戸



三井町第一団地 (輪島市)
木造長屋(まちづくり型)
1,570戸



下唐川第二団地 (穴水町)
木造戸建て風(ふるさと回帰型)
33戸

- 豪雨により浸水被害が確認された仮設住宅は、全戸の修繕を本日完了
→床上浸水6団地(218戸)等
- 豪雨の被災者向けの仮設住宅は、2月から遅くとも3月末までの完成を目指す

復旧・復興の進捗状況 2

道路

県管理道路
(通行止め)

最大
(地震) 42路線 87箇所
(豪雨) 25路線 48箇所



県道高屋出田線 (珠洲市若山町鈴内地内)

現 状

10路線 19箇所



水道

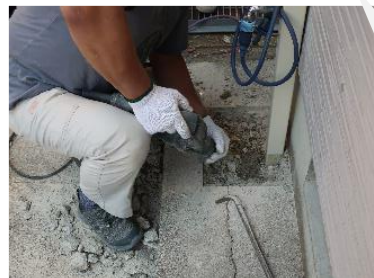
(断水)

最大
(地震) 約 11万 戸
(豪雨) 約 5千 戸



現 状

(地震) 断水解消 ※5/31
(豪雨) 断水解消 ※12/20



土砂崩れや建物倒壊
などによる復旧困難
地区を除く

→復旧困難地区
輪島市 382戸
珠洲市 309戸
(12/23時点)

○宅内配管の修繕工事を促進するため
相談窓口の設置期限を12月27日
から令和7年3月31日に延長

→令和6年5月 相談窓口の開設
・地元以外の工事業者の手配
・地元以外の業者に発注した際の掛かり増し
経費に対する補助 (約200件・約13百万円)

復旧・復興の進捗状況 3

公費解体

中間目標(12月末)
12,445 棟

実績 (12/22)
13,547 棟

- ・解体見込棟数 32,410棟の41.8%にあたる13,547棟の解体が完了 (12/22)
- ・8月の公費解体加速化プランで定めた、
12月末の中間目標12,445棟を上回った



- 申請棟数34,482棟が、解体見込棟数32,410棟を上回り、豪雨により公費解体棟数の増加が見込まれることを考慮し、環境省や市町と協議の上、来年1月中旬に、解体計画(解体棟数、解体班数等)を見直す予定

災害ボランティア

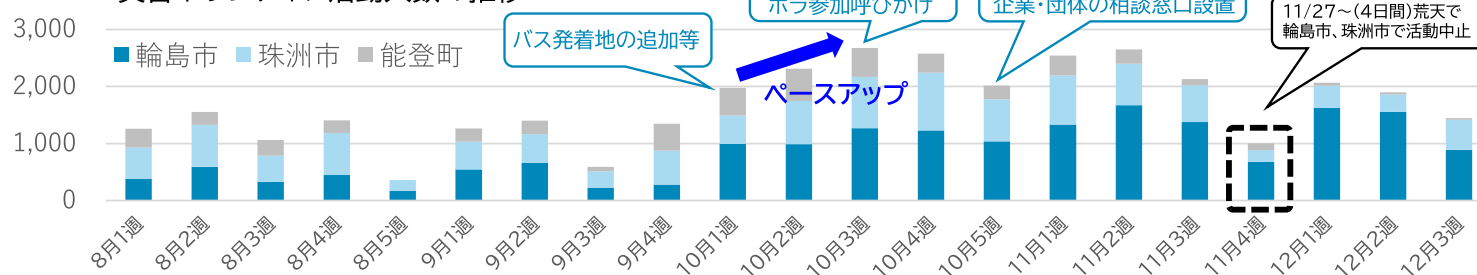
豪雨による宅地の泥出しの
必要人数の目安(12月末)
2万人

実績 (9/21~12/22)
2万2千人

- 市町のボランティアセンターに要請のあった緊急性のある箇所は、
年内に全て対応予定

※設置期間を延長していた、ボランティア宿泊拠点「日本航空学園・輪島ベースキャンプ」は、
年内で緊急性のあるニーズに目途が立ったことを踏まえ、来年1月19日に閉鎖予定

(人) <災害ボランティア活動人数の推移>



1. 被災状況（地方災害のリスク事例）
2. 復旧状況
3. 「創造的復興」に向けて

石川県創造的復興プランの策定（令和6年6月）



<プランの位置づけ>

創造的復興の実現に向けた羅針盤

<対象期間>

県成長戦略と合わせ、**令和14年度末までの9年間**

「短期」(2年後の令和7年度末)

「中期」(5年後の令和10年度末)

「長期」(9年後の令和14年度末)

大施策 1 公共土木施設などの復旧促進

中施策 1 国や市町、事業者と連携した各種インフラ・施設の復旧促進

小施策 1 社会インフラや医療・福祉施設、学校、交通安全施設等の早期復旧

【取組】公共土木施設等の早期復旧

国の権限代行の活用や市町との連携により、地震で被災を受けた道路、上下水道、河川、港湾、公園等の復旧工事を行い、社会インフラの早期の機能回復を図ります。(土木部)

取組	短期 (～R7末)		中期 (～R10末)			長期 (～R14末)			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
公共土木施設等の 早期復旧	応急復旧								
	本復旧					復旧に合わせて 施設の強靱化			

復興プランの策定に向けて

<石川県令和6年能登半島地震復旧・復興本部>

- 目 的 令和6年能登半島地震の被災地の創造的復興に向けた各種の取り組みについて、政府とも連携しながら県庁内の調整を図り推進する
- 設 置 令和6年2月1日
- 構 成 本部長：知事、 副本部長：副知事、 本部員：各部局長
- 会 議
 - (1) 第1回本部会議（令和6年2月1日）
創造的復興に向けた基本方針
 - (2) 第2回本部会議（令和6年3月28日）
石川県創造的復興プラン(仮称)骨子案
 - (3) 第3回本部会議（令和6年5月20日）
石川県創造的復興プラン(仮称)案



復興プランの策定に向けて

<石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザーボード>

○開催状況

(1) 第1回会議 (令和6年3月7日)

(2) 第2回会議 (令和6年4月10日)

※会議のほか、委員の専門分野に応じて個別に相談

○委員 ※五十音順、敬称略

浅野 幸子	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表
安宅 和人	慶應義塾大学環境情報学部教授 LINEヤフー株式会社シニアストラテジスト
今村 久美	認定特定非営利活動法人カタリバ代表理事
小野田 泰明	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授
菅野 拓	大阪公立大学大学院文学研究科准教授
高橋 博之	株式会社雨風太陽代表取締役
太刀川 英輔	NOSIGNER代表 公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会理事長
藤沢 烈	一般社団法人RCF代表理事
谷内江 昭宏	金沢大学能登里山里海未来創造センター長
和田 隆志	公益社団法人大学コンソーシアム石川会長



復興プランの策定に向けて

<のと未来トーク>

- 「これからの能登をどうしていくかを、そのまちに住む当事者のみんなで考える」をコンセプトに、被災6市町と金沢市で被災地の住民等の声を聴く対話の場として開催

※アドバイザーボード委員もファシリテーターとして参画



の未来と未来トーク（珠洲市）



の未来と未来
トーク
珠洲市
2024.4.6
会場：石川県立飯田高等学校
参加者：60名

『何が欲しい？』は困る、
事業再開のために
一緒に考えて欲しい
（50代・女性）
地元の道の駅で働く女性は、「ツール便が来ず、EC等も再開できない。前を向いてやろうとしている事業者を集めて、本当に何が必要かヒアリングしたら、個々で課題が違うことがわかんない。事業再開のための次のステップを助けてほしい」と話しました。



若者はみんな
祭
が
したい！
（10代・女性）



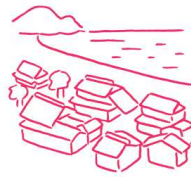
蛸島町で被災し、2次避難先の白山から帰ってきて参加してくれた高校生は、「蛸島には早船狂言があって、外に出た人も絶対帰ってくる。二十歳が近づくとつれて若者はみんなわくわくしてその日を持っている。この祭りをなくしたくない。あたしは外部の人とつながりをつくって、『珠洲はこんないいところがあるんやよ』っていうのをいっぱい人に伝えたい」と話しました。他にも、「祭りがあつたら、地域の人の顔を覚えていて、助け合うことができた」「神社仏閣の修繕への支援が必要」という声も



「最期まで住みたい」
をどう叶えるか
（50代・男性）
高齢者が多い地域であり、次に何かあった時も安全に逃げられる場所をどう作っていくべきか。最期まで住みたい高齢者の希望をどう叶えていくか。などの声が多数ありました。

分散型インフラ
による自立・自律した
コミュニティを
（40代・男性）
断水で、避難所でのトイレが衛生的に使用できず大きな課題。一方で、山の湧き水を使って地域で給水が行われた例も。地域ごとに小規模の上下水道や発電設備があれば、震災があっても地域で自立しているという意見がありました。

昔のままのこのとる、
と言われる能登がいい
（70代・女性）



「奥能登は、神様から与えられた土地。がけ崩れもすべて人間のせいだと思う。人間が住みやすいように山を削ったから被害が出ている。わたしはね、新しいものをつくるのは反対なの。美しい自然と古い家々、ここにしかない歴史。あるものを大事にする。ないものをつくるより、それがわくわくするんじゃないかと思っている」と話された野々江町の元教員の方も。



避難所では、勉強
したくてもできな
かった
（10代・男性）
正院町に住む中学生は3月まで避難所で生活。『子どもが遊ぶスペースや学習用のスペースや学習用の環境がなかなか整わなかった。たまたま人が勉強できるような環境を作りたい』と話しました。

避難所の管理は手書き・・・
また同じことはしたくない
（40代・男性）
「誰がどこに避難しているのか、必要な情報は届いているのかわからなかった。同じような震災がまた起きた際に、マイナンバーカードを拠点でかざして居場所の履歴が残り安否確認できるようなシステムなどが必要では」という意見もありました。

「能登はやさしや〜」、だけじゃなく
強かった、と言えるように
（40代・男性）

江戸時代に加賀藩の武士が日記に残したで言われる、「能登はやさしや、土までも」。『仕事がない、給料が低いと帰ってこない人がたくさんいるが、親世代が伝えてきた負の呪いのようなもの。こんな風に働いている人もいるんだ、に自分がなりたいたい』と話す、Uターンして自営業を営むお父さんも。

ボランティアのおかげで、
なんかできそうと思えた
（30代・女性）
外浦の馬場町に住む女性は、「友人が生き埋めになり、孤立して物資がないと非常にきつかった。自分から居た家を片付けようと思ってたため息がどうも中々で、ボランティアが片付けてくれたことがありがたかった」と話しました。

一方、能登全体で見るとボランティアの数
が足りていないこと、ボランティアの宿泊先
も足りていないことなど、声も多数ありました。

女性の視点で
安心安全に
活かしたい
（50代・女性）
「女性が炊き出しや清掃、高齢者の介護などで駆り出され、避難所生活での負担が大きかった」「地域の老人ホームも60名ほど退職者がおり、残った人が無理しながら頑張っている」「防災の面でも女性の方がトイレのために夜に外に行ったり、ストレスが高かった」など、女性の視点をもって避難生活や安心安全のために活かしたいという声も複数ありました。



のと未来トーク（輪島市）



一次産業の復興が第一、
水産業の人たちが

戻れるように (50代・男性) 住して食料料理店
 を営むも、今は店をあけることができず、金沢へ出張しているという男性も。「輪島は朝市だけじゃない。農業や水産など1次産業が復興しないで、観光は無理。金沢も輪島漁港に生かされてる。金沢に出張きに出ている水産業の人たちがたくさんいるので、戻れるようにしたい」と話しました。



門前に**仮設商店街**をつくりたい

2007年になびがまちがあり、2021年にeと完全復興宣言したと思った。3年後だずになびまち。総持さんの被害もひどい。また1からゼロ直し・心と仮折れしなびになつた」と語られ、総持寺通りの商店街で働いていたという女性。そして、門前に仮仮商店街として店を開けたが少し希望ができてくるかも、と考えている。輪島の中でも様々な背景の地区があり、それぞれの地区におたまちづくりができたら「私も4年前に金沢からもう2門前へUターンしたら、金沢に帰るに出ている若者が戻ってくるようにしたい」と語りました。



の未来
トーク
輪島市

2024.4.7

会場：石川県立輪島高等学校
参加者：75 名

輪島出身で、ウタナシと医師を務めていた男性は、「絶対に、死んで（この）土地を、離れたい」と話した住民たちの声を聞きながら、紛争、戦争レベルの現場でうたへきか葛藤してきた。DNA（災害発生と津波から活断層による機動性を備えた胎生リズム）も東日本大震災の情に促された100以上のチャムを能登へ派遣することになったものの、広域に被害があったため、現場感覚は医療職リソースが全く足りていなかったと話す。自治体レベルで

「死んでも離れたくない」住民がたくさんいた

(40代・男性)

黒瓦の綺麗な街並みを残したい、
 けど・・・（40代・男性）
 門前に住む男性は、「街並みを綺麗
 ねと言われるけど、瓦が重いので」

門前に住む男性は、『街並みが綺麗だな』と言われるけど、瓦が重いので家が潰れるんじゃないかという話も地元の元ではあり、正直怖い部分もある。綺麗な街並みを残したいけど、瓦で潰れたくはない』と理想と現実について語りました。軽量化するなど、現代にあわせていく必要もありそうという話が出ました。

目の前で魚をさばける
かつての **朝市** を

(60代・男性)

(60代・男性)



「数年前から衛生管理が制度化され、目下で魚をさばりなくなっただけで出店者が減っていた。でもばちゃんがんばりを続けて、アルファベットの、魚でもなく、生魚の、生魚の看板の看板。かつての朝市を取り戻すチャンス」を説き、江戸時代から給食店のお店や昔も漆器屋さん。平安時代から物交換が流行していたり、個々のだけでなく、みんなで分け合って生きていくというところの豊かさが流れている朝市。「不便で手間のかかるものが残っているのが魅力」「高校生と朝市英語ガイドを復活させるなど、盛り上げていきたい」という声が聴きえました。

どっちか選ぶのじゃなく、
二地域居住できたらいい (50代・女性)

(50代・女性)

「他の自治体に二次避難していた若い子達が、先日こっちに帰ってきてほんとうにほっとした顔をしていた。地元とつながりがあると、精神的に安心できるはず。二拠点とかで、選択拠を増やしてあげることが大事なのではないか」と話す女性も。行き来のために道路の車線増加や空港の増便などのアイデアも出ました。

子どもも大変、学校のみんなが
輪島に戻る住宅を (10代・男性)

(10代・男性)

全校で10人ほどの小さな小学校に通っている11歳の小学生。「家が傾いたり、子どもも大変。仮設住宅にまだ入れず二次避難から戻ってこれない子も、早く帰ってこれたら」と発表。「子どもたちが交流できる場所があればもっと楽しく過ごせるのでは」とも話しました。

輪島塗の後継者を増やす
ためにも、オープンに (10代・女性)

(10代・女性)

「石川県に住んでいても輪島塗をしたことがない。やってみたい。工房もクローズドな雰囲気、近寄りたいたいが、もっと制作風景などが見れるようになれば」と話す 10代～30代の若者もいました。



輪島塗は純粋寺に全国から修行に
やって来たお坊さんが、全国に持
ち帰って広まったと言われる

もとに戻すのではなく、
(40代・男性)
新しい事業の為に補助金があれば

(40代・男性)

飲食関係の経営者からは、「震災前と同じように復旧してもしょうがない。新しい事業が生まれる補助金があるといい」「2〜3年は、これまでの採算を生み出すのは難しい。頼りたくないうちも必要ではないか。事業再建には雇用を進めない」という声が。

千枚田、地元の人たちが
修復を
(40代・女性)

(40代・女性)

世界農業遺産のシンボル、白米千枚田も、地面に深い亀裂が入り、大きなダメージが。「景観を復旧するためには急いで直さない」と…という声もあるけど、米を考えたが地元の人たちが時間をかけて修復するのも大事」という意見が出ました。

仮設住宅を
建ててもいい？

(40代・女性)

保護者世代の女性たちからは、「危ないところばかりで子どもが遊ぶ場所がない。ストレス発散する遊び場が必要。家の中には限界がある」「公園や学校など、子どもの遊び場に仮設が建てしまった。すぐ建てられる場所はなくしょうがなかった」と思っている。子どもたちに我慢を強いているのは、「という声が上がりました」。



の未来と未来トーク（能登町）



の未来と未来 能登町

2024.4.13

会場：石川県立能登高等学校
参加者：71名

AI 技術 × のと = 課題解決先進地 (40代・男性)

「震災の影響で人口減が加速して、これから日本で起きる課題が、先に起こっている。AI 技術なども活用しながら能登でモデルケースを作れば、日本中、世界中の課題を解決するヒントになるはず」と話す方も。

あばれ祭り

(90代・男性)



のと鉄道と、再開できないか

廃止前は、高校生・おじいちゃんおばあちゃんの利用者が多かったというのと鉄道。2005 年に廃止になり、進学のために下宿せざるを得なくなった高校生などもいたといえます。「震災前以上に、今こそ高齢者や子どもの精神的にも必要なのではないか」「上下分岐方式で経営負担を下げて再開できれば…」という声がありました。

(40代・女性)



魚が捌けるようになった、嬉しかった

宇出津で魚屋を営む男性は、「水が使えず、しばらく魚を捌けず大変だった。2月になると、魚が食べたい」という声が増え、移動販売を週1回はじめた。魚を捌けて本場に届けられた。この震災で改めて仕事による気づいた」と話した。一方で、避難のためまちから人が減っており以前のように店前では売れず、ECなどを活用して販売している状況も。

(50代・男性)

自然との共存 譲れない

(40代・女性)

「能登と言えば自然との共存。自然ではなく人間ベースの復旧復興になってしまうと、能登の暮らしはなくなるのでは」と話す、東京から移住してきた女性も。水道が使えない中でも鮮魚店をまわって魚を用意して「田の神様」へご馳走をお供える民間祭礼である「あえのこて」を行った家もあったそうです。



学校を統合すれば、みんなで遊べるのでは

「子どもたちが町から出ていくな。これは残念だがリアルな問題。一学年5人というところも少なくなくなったが、震災後に転校した子どももいる。統合することでみんなが遊べるようになるのでは」という提案も。(50代・男性)

発酵食・魚食文化

を、生業として次世代に (40代・女性)



「能登の歴史的側面や独自の食文化をきちんと整理して、生業につなげていけるか」という声も。「二次避難で、食文化や能登の知恵が流出してしまう。次世代に伝えるためにも、高齢者に聞き書きして郷土料理の本をまとめた」と話す方もいました。

「地震のせいで何もできない」経験を子どもたちにさせない

「地震の後、子どもたちひたひたに不安確認をするのがとても怖かった」と話す高校教師 3 年目という男性。「登校できたときは、同級生と久々に会えた嬉しさなどで、大人よりも元気だった。『地震のせいで何もできなくなった』とわからないようにしていきたい」と話しました。(20代・男性)

能登でしかできない経験を、インバウンド客に PR (40代・男性)

「漁師がとってきた魚をその場で選んで、客が料理人と一緒に宿泊施設でさばいて料理して朝ご飯にするような体験ができないか」という声や、「祭りをみるだけでなく、観光客も参加できるようなものにしていけないか」という声が、複数ありました。

「まんでまいね」のヨバレが大事

公民館の館長をしてきたという男性は、「祭りのものはもちろん、ヨバレが大事。家族で食材を集めて、みんなでつくって、『まんでまいね』『何つこうたん』と話すのが、大事なコミュニティだった。子どもや若者は、そこで高齢者の話を聞きながら、人間関係や地域のことを学んでいく。そういう文化が、続いてほしい」と話しました。(60代・男性)



ボランティアなかなか来ずつらい

(50代・女性)

「閉まっているときは開いた家に入らなくて涙がとまらない」と話す、子育て中の女性も。外からのボランティアが来ないこと、支援が多い地域とどう違うのか、地域にあることも、自分たちががらにされていると感じる「辛い」と話した。

自分ができることがあれば、応援してくれたいです。(30代・女性)「できることがあるなら来てほしい」という声も。4月に能登町に来たばかりという高校生も参加、家族も行くことを決意して来たいです。(30代・女性)「できることがあるなら来てほしい」という声も。4月に能登町に来たばかりという高校生も参加、家族も行くことを決意して来たいです。(30代・女性)



の未来と未来トーク（穴水町）



の未来と未来 穴水町

2024.4.14

会場：石川県穴水町立穴水中学校
参加者：30名

地震で、農業を続けられなくなった家も

代々引き継いだ栗園を営む男性は、「30 軒あった栗園が、高齢化によって 10 軒になっていたところに地震が来た。続けられなくなった家もあり、他の栗園も管理することになった。穴水には 100 ～ 200 人くらいの集落が点々であるが、高齢化率も高く、集落内だけで何かをするのは難しい。集落の壁を超えて協力し、穴水と言えばコレという魅力をつくっていかれば」と話しました。



ボラ待ち やぐら

活用できないか
(60代・男性)

江戸時代から伝わる漁法と言われる、ボラ待ちやぐら。地域にはまだ、やぐらを建てて漁をしていた経験がある漁師さんもあるそうです。「穴水と言えばボラ待ちやぐらだが、ただあるだけになってしまっている。もっと体験等に活用できないか」という声もありました。



能登にしかないものを、世界へ

能登の樹木を日本全国や海外に輸出しているという造園業者が、能登の地産産物、産業にしていける人がもっと増えれば」と話しました。(50代・男性)

を、世界へ
売り込む

私たちが、この厳しい 半島に住む意味は何か

(50代・男性)

祭りの復活で、ひとの繋がりが復活する

(40代・男性)

避難所で炊き出しを行っていた男性は「炊き出しをすごく喜んでもらえ、穴水の中の地域・集落を超えて何かに取り組んだ初めての経験になった。最近は避難所が閉じて集まる場所がなく、話すタイミングがなくなった。お祭りなどを復活する過程で、若い人と高齢者が集まれるような場が欲しい」と、話しました。



LINEやネットだけでは ダメだった

(60代・女性)

仮設住宅の説明会を避難所で行って知ったという方も。支援情報が届いたところは紙や口頭でも情報共有があったが、LINE などだけのエリアでは高齢者に情報が届かなかったという話がありました。

つばめ調査で、自然に コミュニケーション

(50代・男性)

木造家屋も多く、軒先につばめの巣が多いという穴水。巣は縁起がよいので、春先になるとわざわざ窓を開けて来訪を待つ家もあるそう。各家につばめが来ているかの調査をずっと続けてきたそうで、今年も実施して近所の人で話す機会になればという話も出ました。



ボランティアが来やすい仕組みをつくりたい
(50代・女性)

地域のハブになる、 プロ民生委員を

(40代・女性)

「ハブになる人が地域にいないかどうかで、避難生活の質が大きく変わった。民生委員は無償で、なり手の負担が大きくしんどかったが、地域にハブとなる人は必要。プロとして有償で働く人を育成する仕組みをつくり、移住者の生業などにできれば」という声がありました。

教員・公務員も、被災者のひとり



のと未来トーク（七尾市）



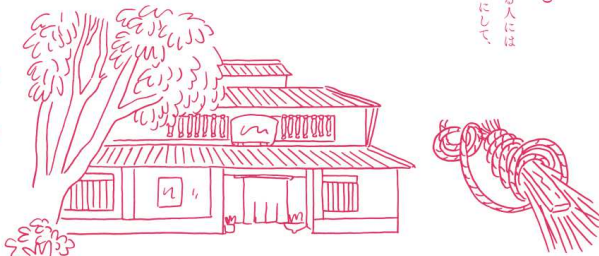
のと未来
トーク
七尾市
2024.4.20
会場：石川県立七尾高等学校
参加者：66名

事業承継 震災前から課題だった

寄棟造りの町家が並び、600年以上の歴史を持つ一本杉通り。しかし後継者がうまく見つからず、閉めるしかないお店が震災前からあったそうです。「震災を機に、事業承継をちゃんと考えていかないといけない」という声がありました。（40代・女性）

食の力で活気 取り戻したい

（30代・男性）



能登島を忘れさせない

（60代・女性）

七尾では、被災後すぐに炊き出しを始める有志の料理人も多かった。能登は色々と食で、町を盛りあげていかなければならない。震災を機に、農家や漁師、旅館などのつながりを改めて感じたい。などの声もありました。

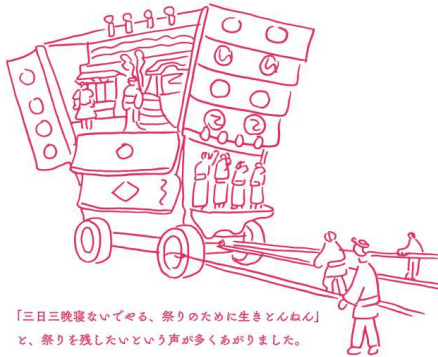


関係人口を映し鏡に、地域の価値を再発見する
（30代・男性）
県外に住むも、震災を機に月1〜2回帰ってきている女性は、ずっと住んでいる人には気づかないことが、外から来て見るとのこと。「外から来た関係人口を映し鏡にして、地域の価値を再発見していくことが大事では」と話しました。

祭りがゼロ回になるのは嫌だ

（20代・男性）

2024年は中止が決まった、青拍祭の曳山行事（でかま）。「やることに意味がある。小さくする、でかま動かさないでも・・・、カタチを変えてでもやっていく必要がある」



「三日三晩寝ないでやる、祭りのために生きとんねん」と、祭りを残したいという声が多くありました。

儲かる漁業を学べる、水産高校を
（30代・男性）
「七尾でも漁師はどんどん減っている。儲かる漁業をする人がもっと増えないといけない」「能登が一次産業で勝負していくんだら、漁師が経営を学べるような新しい水産高校も必要なのではないか」という意見も出ました。



土中環境

を見直して、液状化対策を
（70代・女性）

七尾に生まれ育って75年という女性は、「人間が地面を固めて、地盤が弱くなったのではないが。昔は土中の水の通り道をくりくり水を滞留させないことで、建物が倒れにくかったと聞く。地面の上だけでなく、土の中から見直さないか」と語りました。

ONE NOTO, ONE TEAM

大学生も数名参加。「能登では個々に様々なコンテンツがあるが、災害をきっかけに『ONENOTO』としてインバウンドにおける能登ブランドを構築し、稼ぐ能登をつくりたい。自分も地域資源を売っていきたい」「能登の魅力を外周へ発信するプラットフォームを作成中」と話しました。（20代・男性）

奥能登あってこそ和倉

（40代・男性）

4月により多く金域が通水した和倉温泉。旅館業を営む男性も「奥能登があってこそ、和倉温泉も成り立つ。地域を超えて連携していきたい。奥能登のハブになれる宿泊施設が和倉にはある」と話しました。



「片づけた方がいいわいな」と思う
（30代・女性）
「今朝も、慣れたように00年以上の主要の公衆浴場を申請したいけど、後継者がいない。苦労してという相談を受けていた。余震と前震も重なった家もある」と話す。元教員の方。エリアごとに被害が大きく異なる。田舎にないような家屋や高層者が多い地域では、心を配ってこれからの不安も大きいと感じた。（70代・男性）

本音をしゃべれど、心がつらくなる
（30代・女性）
「3ヶ月経った今、どうにか頑張ってきた大人たちのメンタルが限界にきている。家族や親戚関係でもつらいことがたくさんある。田舎は、カフェでも知り合いがいるから本音を言えない。安心して語れる場所をつくらなきゃ。コミュニティの外からの心理士の方。」「30代・女性」



の未来と未来トーク（志賀町）



志賀町の未来と未来トーク

2024.4.28

会場：志賀町文化ホール
参加者：46名

隣近所おってこそ集落 (50代・女性)

社会福祉士として、他の地域から避難してきた15次避難所やみなし仮設の方々の相談を受けているという女性。「みんながいないどころに戻っても意味がない、隣近所おってこそ集落」と話す方が多い。そのままそっくり戻れないけど集落も心配で、どうするか悩まれている」と現状を話しました。

人に来てくれるのはチャンス。外からの意見なら動きやすいのでは」という意見も。

福浦の歴史 途絶えるかも (70代・男性)



宝を隠し持っていたい (60代・男性)

「田舎の魅力は時間をかけてつくってきたもの。産業で売れる宝にして外に出すのもいいけど、隠し持っていたい気持ちを持って人もいる」「能登には平家の落人の集落もあった。ひっそりとひびからかさない気持ちも大事にしたい」と話す人たちが。

被害が少なく罪悪感 できること探した

「能登のお寺は倒壊したりすごくダメージを受けたりけど、自分の寺は少し傾いたくらい。助かってごめんてモヤモヤしてる」と話す女性も。他にも「被害格差で罪悪感はある。自分は初日から自宅へ通じた。平気な分、できることを探した」という声も。(40代・女性)

和太鼓 子どもたちへも

(20代・男性)

志賀町の無形文化財である「志賀の太鼓」。毎年、県下太鼓打競技大会が高浜町で開催されています。「若い力でまちを元気にしたい。子どもたちと和太鼓を教えたり、チャリティイベントなども考えている」と話す方も。



原発の存在を避けて 安全・安心の議論はできない

(70代・男性)

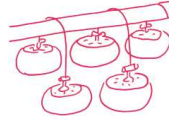
2011年から運転を停止している、志賀原発。「今回、道路が崩れて避難経路が全部断れた。原発事故が起きた際、旧志賀町の人々は金沢に逃げられても、北側の富来町の人は逃げられない」「安定ヨウ素剤を平時から配って置いてほしい」「廃炉が再稼働か、そろそろ結論を出すべきでは」との意見が出ました。



行政のプラン作りを 待ってちゃダメ

(60代・男性)

「話し合ってるという文化が、これまで地域で弱かった。行政の一方的なトップダウンではダメだが、住民自ら何かしようという動きも薄い。行政が最終的に責任を持つから、行政を納得させてみんなであらう。どうしようにしないといけない」と話す方も。どうやらみんな対話の場がつかれるか話し合う姿がありました。



震災で子どもが不登校に… 仕事を休職中

(40代・女性)

発達障害の子どもを育てているという女性。子どもは地震をきっかけに不登校になったそう。現在は休職しており、「復帰できるかわからない」「フリースクールなどが町にない。不登校の子が増えている中で、子どもの顔を見るために仕事ができない親がいるはず」と話しました。

国定公園 上手に活かしたい

能登半島の海岸線を中心に石川県市5町、富山県2市にまたがる能登半島国定公園。日本海によって造られた美しい自然を維持する役割を果たす一方で、公園内の建物のメンテナンスの難しさが課題に。「国定公園内でできること、難しいことを整理する必要がある」との意見が出ました。(40代・女性)



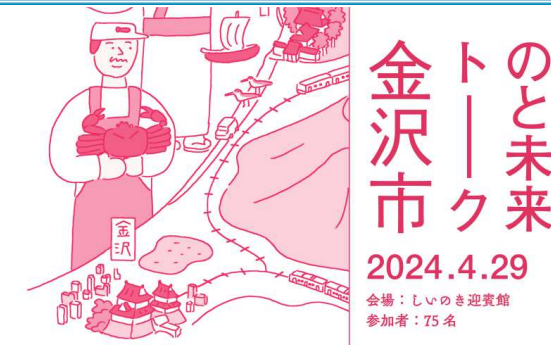
「いつか、だれかが」から、 「いま、わたしが」へ (40代・女性)

4年前に志賀町に移住した女性。「普段は思わなかったのに今は、何かしらのことで、自分たちも一緒に新しい町のことを考えたい」と話した高校3年生。将来は看護士になって、町の医療に関わりたいとも思っている。

自分たちも一緒に、町のことを考えたい (10代・女性)



の未来と未来トーク（金沢市）



の未来と未来 金沢市

2024.4.29

会場：しいのき迎賓館
参加者：75名

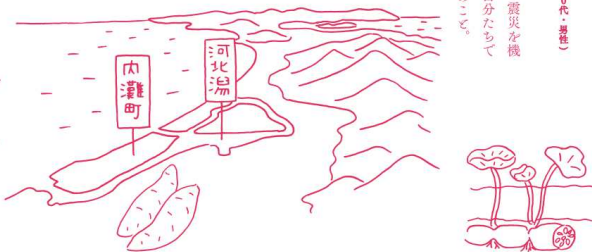
外の人も 家業の継ぎ手に

(50代・男性)

食や伝統工芸など、さまざまな能登のなりわいの事業継続が危がまれている現在。実家で味噌を作ってきた男性は「後継がいなくて困っている。外部の人たちを家業に入りたい」と話します。事業相談できる場所の少なさを、そもそもの収益の少なさが課題という声もありました。

震度5弱でも 家が倒れた

(50代・男性)



能登を離れないと決めた

自宅が全壊し、家族を亡くした方も参加。「本当に多くのものを失ったけど、自分は逆に能登を離れないと決めました。必ずまちを復興したい。家族全員が瓦礫の下になったけど、まちの人が助けてくれて命が助かった。その人たちに恩返しをしたい気持ちじゃない」と話しました。(40代・男性)



金沢から家族で遊びに
来てもらえる場所をつくる

古民家を買って宿をやろうとしている中で被災し、全壊になったという珠洲市の女性。「近所に住んでいた家族は金沢に避難したり引っ越したりしたりで、家族で遊びに来るにもいい場所。絶対にまたある場所や宿をやりたい」と話しました。(30代・女性)

東京の サラリーマン辞め 帰ってきた

(50代・男性)

実家が輪島の洋服店という男性は、東京でサラリーマンとして働いていたものの、震災を機に金沢に帰り、今は金沢で輪島の二拠点生活をしている。「都会に出て、全部自分たちでやるのではなく、外に頼った方がいらしくなってきた。発信を強化していきたい」と話した。

金沢に 能登のお魚が減ってる

(30代・女性)

「市内の飲食店や近江町市場で、能登産の魚を見かけなくなった」と話す人も。金沢の飲食店は能登からの素材に支えられている部分も大きく、漁港や流通が立ち直っていくことが観光客を呼び込む上でも大事そうです。



骨を埋める人でなく 関連する人 を増えそう

(50代・男性)

金沢で不動産業を営む50代の男性は「住民票はなくとも能登に定期的に間、関係人口と常住人口の間の“関連人口”を増やせば、空き家を活用した地域ならではの景色をつくり、東京の人に2つ目の拠点として選んでももらえる集落にしたい」と話しました。「骨を埋めないとしても、子どもが大きくなるまで住むのと思ってもらえることが大事かも」と話した。



の未来と未来 子ども版

(30代・男性)

「子どもたちをまちへの思いは大人と一緒。『マクドナルドを作りたい』という高校生も」と話した。子どもも、若者に関わるNPOの代表。「若い世代の意見は大きい。それがなければ能登は博物館の中の工芸品になってしまう」と語る10代の男性も。

母の実家が全焼 金沢から支えたい

(40代・女性)

「金沢に住んでいるが、母の実家は輪島の朝市で全焼。すぐ行きたかったが邪魔かと思い、2月に行った。光景がショックすぎて復興なんてできないと落ち込んだ。今はようやく気持ちが落ち着いてきた。住めないとしても、二拠点的に間をたい」と参加してくださった方もいました。(40代・女性)

聖地巡礼や 修学旅行・合宿の場

万葉集の中で多くの歌を残した大伴家持「能登には大伴家持が能登國を巡った際に詠んだ歌碑がたくさんある。文学系の聖地巡礼などもできるかも」という案も。「地域外からのニーズを増やすために、修学旅行や合宿の誘致をして」と話す人もいました。(60代・男性)

観光客を、 金沢→能登に

(10代・男性)

「通学で金沢駅を使うと、観光している外国人の方をたくさん見かける。彼らに能登まで来てもらう方法を考えたい。食や文化の体験、地元の人との交流などを融合し、魅力的な長期滞在プランを作れないか」と提案する高校生の案も。

今はまだ、 ゆっくりやりたい

未来に向けて動く周囲に、まだ気持ちが追いつかない人もいます。二次避難中の方を含め、「入るの命を助ける必要だけど、正直まだ未来について考えられない。ゆっくりしたい」「1月1日より前の日常に戻りたい。今はそれ以外でもできることをしたい」といった声もありました。(40代・女性)



「元に戻す復興」では解決しない

□ 元々能登では、細長い半島の過疎地で高齢化等がいち早く進み、様々な課題が山積。

- 学校の閉校、公共交通の減少、祭りの断絶、高齢者同士での支え合い、老朽インフラや空き家。。



**もともと能登は、持続可能な状態ではなかった。
そして震災により、その時計が10年以上も早まってしまった。**

□ 元に戻すだけの復興では、課題山積みの状態に戻してしまうだけ。

- 課題を増やすことも。東北の事例では、災害公営住宅の空き家が増え、水道維持費が自治体会計を圧迫。



**復興に向けたインフラや社会機能の一斉投資をどのように行うか
(=これから能登がどう変わるか) が重要。**

復興の方向性はどうあるべきか

石川 馳知事 国の財政制度等審議会の提言に不快感示す (2024年4月11日 NHKニュース)



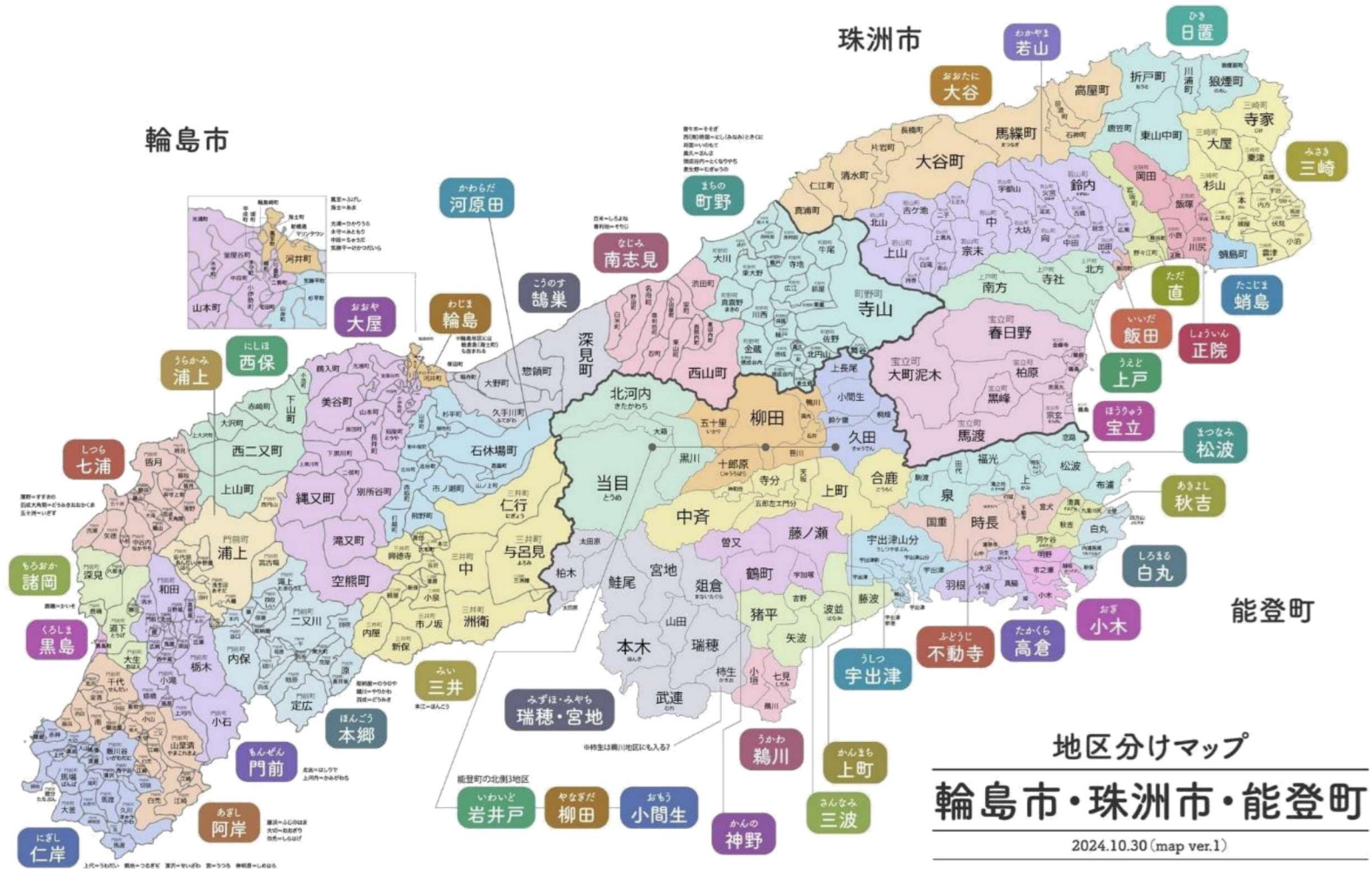
国の財政制度等審議会は9日の会合で、**今後のインフラ整備は人口減少が続くことを念頭に進めていく必要がある**として、能登半島地震の復旧・復興にあたっては、**住民の意向を踏まえつつ集約的なまちづくりを検討すべき**だと提言しました。

これについて**石川県の馳知事**は、11日の記者会見で「被災した住民や事業者がもとのように生活できるようにしたい、インフラは強じん化してあげたいと、そのための復興のプランを検討している時に、**冷や水をかけられたような気持ちだ**」と述べました。

そのうえで「**最初から『上から目線』でものを言われているようで、大変気分が悪い**」などと述べ、不快感を示しました。

一方で、馳知事は「**財政上の観点から効率性を目指すというのは政府として当然の方針であるとも思う**。復興プランは誰もが納得できるよう財政出動、財政支援、税制優遇などとの**バランスをとって作っていかねばならない**と自覚はしている」と述べました。

復興の方向性はどうあるべきか



A3サイズ印刷推奨

※A3でも読めない細かな文字があります。文字が読める地図をお求めの場合は各市町それぞれの地区分けマップをご使用ください。右のQRコードからダウンロードできます。



同データダウンロードは
こちら (google drive)



復興の方向性はどうあるべきか

人口・経済規模が大きい（いわゆる都市部）

質の高い資源がある

地方の盟主型

（例：札幌、仙台、福岡）

企業だったら…

リーダー戦略

高い競争力で全方位に訴求する
トップであり続ける

地方の拠点型

（例：旭川？、秋田？、鹿児島？）

企業だったら…

チャレンジャー戦略

リーダーとの差別化を狙う
フォロワーから客を奪う

質の高い資源に乏しい

魅力的なふるさと型

（例：観光地、ウェルビーイング）

企業だったら…

ニッチャー戦略

特定市場に集中・特化する
売上よりも利益の拡大を目指す

ベッドタウン型

（例：通勤・通学圏）

企業だったら…

フォロワー戦略

リーダーやチャレンジャーを模倣する
低価格化（コスト安）を目指す

人口・経済規模が小さい（いわゆる田舎）

能登らしさ

壮大な自然が織りなす類稀な絶景と豊かな生命

日本海の荒波にさらされる外浦には、厳然として美しい断崖と岩礁が織りなす雄大な風景が広がっています。冬場、吹きすさぶ季節風によって岩場に塩の泡が打ち寄せられ、雪のように舞う幻想的な光景は、「波の花」と呼ばれる外浦の風物詩です。

対照的に内浦は比較的温暖な気候で、日々穏やかに波がたゆたい、ゆったりと時が流れるような心地よい空気を醸し出しています。のどかな田園風景となだらかな砂浜の向こう、澄み切った空気の海越しに、立山連峰の美しい稜線を望むことができます。



禄剛崎（珠洲市）



北陸の中でも北に突き出した半島ながら、対馬暖流が流れ込むことで、暖寒両系の動植物が生息する豊かな生物相が存在しています。外浦や内浦の表情豊かな自然環境と生命をたたえ、半島を取り囲む形で、能登半島国定公園が指定されました。国特別天然記念物トキの本州最後の生息地でもあり、トキの野生復帰に向けて、放鳥候補地として選定されています。

能登らしさ

自然と共生する人々の、しなやかで美しい暮らしとなりわい

標高300～400m程度の低山や丘陵が能登一帯に広がる中で、海岸線や山々の隙間を縫うように数多くの集落が点在しており、茅葺きや白壁・黒瓦の家並みが四季の彩りに美しく調和します。海岸に面した道沿いでは、冬に吹きつける日本海の潮風や夏の強い西日を遮るために、間垣（まがき）と呼ばれる竹の垣根が立ち並びます。

外浦の急傾斜地には、白米千枚田をはじめとした棚田や谷地田が地形に沿って緻密に作られ、天日で稲穂を干すはざ干しなど、手作業の稲作が多く営まれています。中島菜などの能登野菜や能登大納言小豆など、多くの在来品種が能登の豊かな風土に育まれ、高品質なブランド食材としてその価値を認められています。南北の海流がぶつかる豊かな海岸地形と湾は、身の詰まったブリやカニをはじめ多様な漁業資源を生み出し、外浦では複雑な地形に応じた多様な漁法が営まれ、内浦では定置網漁やいか釣り漁が盛んです。新鮮な海産物や干物、野菜が並ぶ朝市では、売り手と客の賑やかな掛け合いが飛び交います。



白米千枚田（輪島市） （写真）石川県観光連盟



（写真）石川県観光連盟

日本で唯一能登にのみ残る「揚げ浜式」と呼ばれる製塩法や、季節に応じて離島と本土を住み分ける海女漁、能登の海で獲れた海産物由来の魚醤であるいしる・いしりの製造技術、日本四大杜氏に数えられる能登杜氏の濃厚で華やかな酒造り、日本を代表する漆器である輪島塗や珠洲焼などの伝統工芸、里山の管理・保全とも密接に結び付く炭焼き、豊富な埋蔵量を誇る珪藻土の活用など、自然と共生した特色あるなりわいが途絶えることなく継承されています。

能登らしさ

人々が心を激しく燃やし、地域が一つになる祭り

夏から秋にかけて、豊漁や豊作を祈願し、キリコや奉燈と呼ばれる高さ数メートルから十数メートルの御神灯が集落を練り歩くキリコ祭りが、能登各地を賑わします。国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産にも登録された、田の神を家に迎え入れる神事「あえのこと」や農家のなまけ癖を戒める伝統行事「アマメハギ」など、地域と深く結びついた文化・祭礼が、連綿と受け継がれています。



あばれ祭り（能登町）

能登の祭りは地域のアイデンティティであるとともに、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加することで、地域の結束を高める役割を担っています。祭りが近づくにつれ、道具の準備や作法の確認、食事の用意など、老若男女問わず皆が忙しくなります。全体の指揮を青年団が執り、そのリーダーは、大人たちから頼られ、子供たちが憧れる存在です。能登を離れても、祭りの時には地元に戻るという方がとても多く、毎年、年末年始やお盆ではなく、祭りの日に合わせて同窓会が開かれるほどです。



あえのこと

(写真)珠洲市HP

祭りの場では、「ヨバレ」と言われる風習があり、親類縁者や友人・知人など祭りに参加する者を座敷に上げ、五穀豊穡や大漁への感謝と共に、地元の食材や酒を振る舞います。能登の祭りには、地域に関わる全ての人々を魅了し一体にする、激しく燃えるエネルギーがあります。

能登らしさ

おたがいのことを思いやり支えあう、人のつながり

昔から、能登に住む人々の素朴で温かい人情は、「能登はやさしや土までも」と表現されてきました。収穫した野菜や獲れた魚を近所の人にお裾分けしたり、旅行者に声をかけて食事を振る舞ったりする光景が日常的に見られ、人にお裾分けし、またある時には人からお裾分けをもらう「おたがいさま」の関係が、日々の暮らしに息づいています。能登の社会の最も大切な部分は、決して経済的な数字に表れない、緩やかで温かい形で存在しています。



毎日、通学路で子どもたちが「おはようございます」と声を弾ませ、地域のお年寄りが「いってらっしゃい、きをつけてな」と優しく声をかける日常の風景があります。能登へ移住した人は、周囲の人々がとにかく構いたがり、徹底的に世話を焼いてくることに驚きます。互いを監視しあう社会ではなく、愛情をもって見守り支える社会が能登にはあります。



花嫁のれん（七尾市）（写真）石川県観光連盟

能登で伸び伸びと育った子どもたちも、いつしか都会に憧れ、出ていくことがあります。「能登はいいところだけど、なにもない」という思いで都会に移って初めて、能登で過ごした日々のなんでもない暮らしや周りとのやり取り、風景、香りや音に、何にも代えがたい愛おしさを覚えます。場所は違っていても能登のことに思いを馳せ、家族や知人を気遣ったり、祭りや手伝いで帰省したりしながら、能登の人のつながりは地域を越えて温められています。

魅力的なふるさととしての能登へ

□ 能登には、魅力的な資源として、独自の歴史文化や自然環境、コミュニティが存在。

- 国定公園、白壁黒瓦、輪島塗、日本四大杜氏、ブランド食材、キリコ祭り、「能登はやさしや土までも」。。。



**「能登らしさ」を活かした、魅力的で持続的なふるさとへ。
他方、そのために、何を変えていくのかという挑戦＝「創造的復興」。**

□ 「魅力的なふるさと」の持続的なモデルは世の中で確立していない。能登がそれを示せるか。

- 例えば、新增田レポート(2024年)の「自立持続可能性自治体」はほぼ全て、ベッドタウンか企業城下町。



**創造的復興プランのスローガン
「能登が示す、ふるさとの未来 Noto, the future of country」**

創造的復興プランの構成

- 序 章 「能登らしさ」
- 第1章 「被災状況」
地震の概要、県内における被害の状況
- 第2章 「創造的復興に向けて」
創造的復興の必要性、スローガン、創造的復興に向けた基本姿勢
- 第3章 「プランの位置づけ、計画期間、対象地域」
プランの位置づけ、期間、対象地域、創造的復興に向けたさまざまな声
- 第4章 「創造的復興に向けた取り組み」
施策体系、創造的復興リーディングプロジェクト、具体的取組（別冊）
- 第5章 「推進体制と進捗管理」
多様な主体との連携・協力、復興財源の確保、進捗管理、
検証と後世への伝承
- 別 冊 「施策編」
具体的取組、タイムライン

基本姿勢の提示

< 基本姿勢 >

(1) 地域が考える地域の未来を尊重する

創造的復興では、各地域のこれからのあり方を地域で考えることが重要で、在所には日々の暮らしや祭りの中で育まれた絆があり、そうした[地域で主体的に検討した地域の未来像を行政も最大限尊重します](#)。

(2) あらゆる主体が連携して復興に取り組む

創造的復興に向け、[行政と住民はもとより、産業界、高等教育機関、NPO、ボランティアなどが相互に連携し、](#)智恵と力を引き出しあえる状況を作ることが重要です。柔軟な姿勢で有効な施策の創出に向け、県も連携の場づくりを支えていきます。

(3) 若者や現役世代の声を十分に反映する

高齢人口が多い能登では、能登の声を年配者が占めがちですが、数十年後の未来に責任を持てる世代は今の若者や現役世代です。幅広い年代の地域の皆が希望を持てる未来に向け、経験豊富な年配者の応援やサポートのもと、[若者や現役世代が中心となり議論する](#)ことが重要で、行政もその推進に取り組みます。

(4) 女性や外国人、障害のある人など多様な視点を積極的に取り入れる

被災により人口減少が加速するおそれもある中、男性や年配者などの一部のみで意思決定を行うのではなく、誰もが力を発揮できるように、[女性も含め多様な主体が計画や施策の意思決定に関与](#)できることが不可欠です。特に若者や女性、外国人、障害のある人などの活躍支援、多文化共生の視点を積極的に取り入れます。

基本姿勢の提示

< 基本姿勢 >

(5) 多様な形で地域のことに携わる関係人口を活かす

能登に住む方のみならず、出身者や関係者など多くの人々が、いま能登を想っています。[テレワークや二地域居住なども含め、多様な形の関係人口](#)が地域にもたらす知見や、人のつながりのハブとしての価値を認識し、地域の一員としてその活動を支えます。

(6) ありたい社会をもとに持続可能なインフラを考える

震災を経て、あらゆるインフラが一斉に再投資されることとなりました。インフラが社会を形づくるのではなく、[ありたい社会からインフラを決める](#)タイミングが来ています。ドローンやマイクログリッドなどの最新技術も駆使し、経済・社会・環境の面に配慮した持続的な形で、必要なインフラを考えます。

(7) 能登全体を俯瞰し互いの地域が協力していく

能登では祭りと在所が密接に紐づき、強い地域の絆を生み出していますが、これからは、一つの地域ですべての仕組みを完結させることは困難です。観光や公共サービス分野などでは視野を広げ、[連携により持続可能となる可能性](#)を追求していきます。

(8) 能登のブランド価値を外の目線で捉えなおす

能登の人々が考える能登の良さとはまた違う視点で、外からは能登の良さを感じています。都市部にはないものが能登にはあり、そこに見いだされる良さを踏まえ、[ブランド価値を高めることで、都市部と対等な能登の経済](#)を実現していきます。

基本姿勢の提示

< 基本姿勢 >

(9) デジタル技術による可能性の広がり挑戦する

デジタル技術はコミュニケーションの距離を縮め、場所の制約をなくし、情報を見える化し、多くの手間から人を開放する新しい道具です。アナログな領域にある能登の良さにこれからも心と手間を注いでいくために、[デジタル技術のさらなる活用に挑戦](#)します。

(10) 調査・統計や地図情報などのデータを踏まえる

官民の情報の充実やデジタル技術の高度化などにより、これまで見えなかった情報が見えるようになっています。[大学や企業などとも連携し、示唆のあるデータ](#)をもとに、わかりやすくまとめることで、議論の深掘りや進捗の確認に役立てます。

(11) 平時の延長で有事に備える

災害に備え平時から多くの労力とコストを費やすことは困難です。[平時の活動が有事の動きの型になったり、平時に使っている拠点が有事の拠点にもなったり](#)するなど、平時からしっかりと災害に備える「フェーズフリー」の仕組みを目指します。

(12) 積極的に情報を発信する

震災により日本中から応援が集まりましたが、やはり次第にその関心は薄れていきます。復興は長丁場であり、能登がいまどのように復興しているか、何が課題となっているかなどの[情報を継続的かつ効果的に発信](#)していきます。

創造的復興に向けた取り組み

1 教訓を踏まえた災害に強い地域づくり

インフラや施設の早期復旧と強靱化、災害廃棄物の処理促進、復旧事業者や支援者への支援、復旧・復興を通じた関係人口の拡大 など

2 能登の特色ある生業（なりわい）の再建

被災した事業者の早期再建に向けた支援、農林水産業の再建、伝統工芸産業や商店街の再建、観光産業の再建、新たなビジネスの創出 など

3 暮らしとコミュニティの再建

暮らしと住まいの再建、祭りや文化財の再建、文化・スポーツの力の活用、地域公共交通の再建、デジタル活用などスマートな生活の実現 など

4 誰もが安全・安心に暮らし、学ぶことができる環境・地域づくり

医療・福祉・子育て支援体制の充実強化、学びの環境の再建、豊かな自然環境を活かした能登の魅力の向上、被災者・被災地支援の充実、危機管理対応の充実と震災の検証 など

このうち、創造的復興の象徴的プロジェクトを「**創造的復興リーディングプロジェクト**」と位置づけ

創造的復興リーディングプロジェクト

取組 1 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

<内容>

- 能登地域の特性に対応した「二地域居住モデル」の検討
- 官民連携の「連携復興センター」の設置
- 能登農林水産業ボランティアの実施
- 能登への移動時間の短縮 など



(写真) 石川県観光連盟

取組 2 能登サテライトキャンパス構想の推進

<内容>

- 復興に関わる県内外の大学生等の受入促進
- 金沢大学「能登里山里海未来創造センター」など高等教育機関との連携
- 防災・復興に係る産学官の連携機関の設置
- 学生の祭りへの参加促進による伝統文化に触れる学びの場の創出 など



(写真) 金沢大学能登里山里海SDGsマイスタープログラム

取組 3 能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり

<内容>

- ICTを活用した遠隔授業など学習環境整備
- 能登の各高校間の連携・交流による魅力ある学校づくり
- ふるさとの価値を実感し、国内外の生徒との交流や課題解決型学習を進める創造的復興教育の推進
- 能登で子育てがしたいと 느낄 수 있는 環境整備 など



(写真) 能登高校提供

取組 4 新たな視点に立ったインフラの強靱化

<内容>

- 道路強靱化と里山里海との調和を図り、能登半島沿岸部の回遊性を高める「能登半島絶景海道」の整備 など



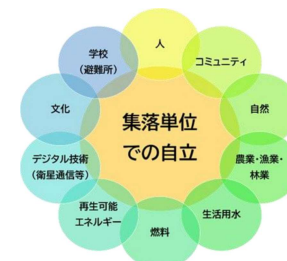
(堂ヶ崎 (珠州市)) 白米千枚田 (輪島市))

取組 5 自立・分散型エネルギーの活用などグリーンイノベーションの推進

従前の「線でつながるインフラ」に加え、自立・分散型の「点でまかなうインフラ」も選択肢の一つとするなど、能登におけるグリーンイノベーションに向けた先進的な取り組みを進めます。

<内容>

- 自立分散型のオフグリッド集落の整備
- 住宅や事業所におけるグリーンイノベーション (太陽光発電や蓄電池等の普及)
- 環境負荷の小さい電気自動車によるグリーンドライブの推進 など



オフグリッド集落のイメージ

取組 6 のと里山空港の拠点機能の強化

<内容>

- 定期便に加え、プライベートジェット等の航空利用の促進
- 災害時における防災拠点としての機能強化 など



(空港上空からの眺望) (着陸した自衛隊機)

創造的復興リーディングプロジェクト

取組 7 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

<内容>

- 自家用有償旅客運送やAIオンデマンド型交通、自動運転などの導入 など



(小松市で運行されている自動運転バス)
(写真) 小松市提供

取組 8 奥能登版デジタルライフラインの構築

今回の震災では、デジタル技術が物資の支援や被災者・避難所等の状況把握などで活用されました。こうした経験を踏まえ、国や市町とも連携し、平時から災害時までフェーズフリーで、状況に関わらず活用が可能な「奥能登版デジタルライフライン」の構築を目指します。

<内容>

- 公民館等を活用したモビリティ・ハブの検討
- ドローンを活用した物流配送の確立
- マイナンバーカードの普及促進と公共施設等での新たな利用の検討 など



(ドローンによる支援物資輸送)

取組 9 能登の「祭り」の再興

<内容>

- 祭り用具の補修や新たな調達等に対する支援 など



(あばれ祭り(能登町))



(青柏祭(七尾市))

(写真) 石川県観光連盟

取組10 震災遺構の地域資源化に向けた取り組み

<内容>

- ジオパークなど震災遺構の地域資源化に向けた調査・検討 など



(黒島漁港(輪島市))



(写真右) 国土地理院HP

取組11 能登半島国定公園のリ・デザイン

<内容>

- 能登半島国定公園の拡張を通じた「30by30」の実現
- 「のとSDGsトレイル(仮称)」の創設 など



(禄剛崎(珠洲市))

(写真) 石川県観光連盟

取組12 トキが舞う能登の実現

<内容>

- トキの放鳥・定着に向けた餌場等の確保・整備
- トキをシンボルとしたブランド化等の地域活性化 など



取組13 産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進

<内容>

- 「産学官石川復興プロジェクト会議(仮称)」の設置

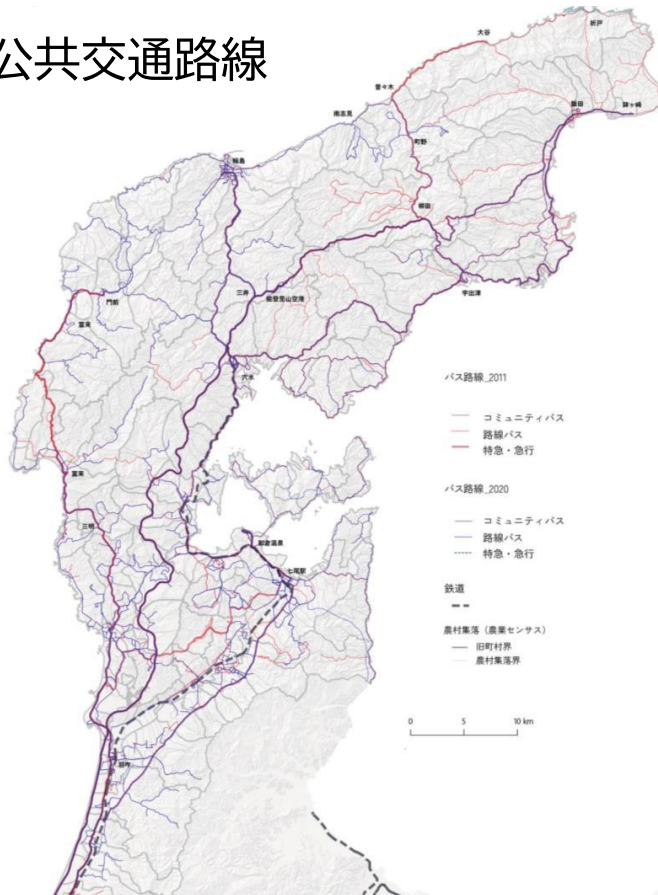


(参考) マップデータ集の作成

別冊のマップデータ集には、行政をはじめ、様々な主体が能登の創造的復興に取り組む際に、参考となりうる各種の統計・地理情報を地図形式で掲載

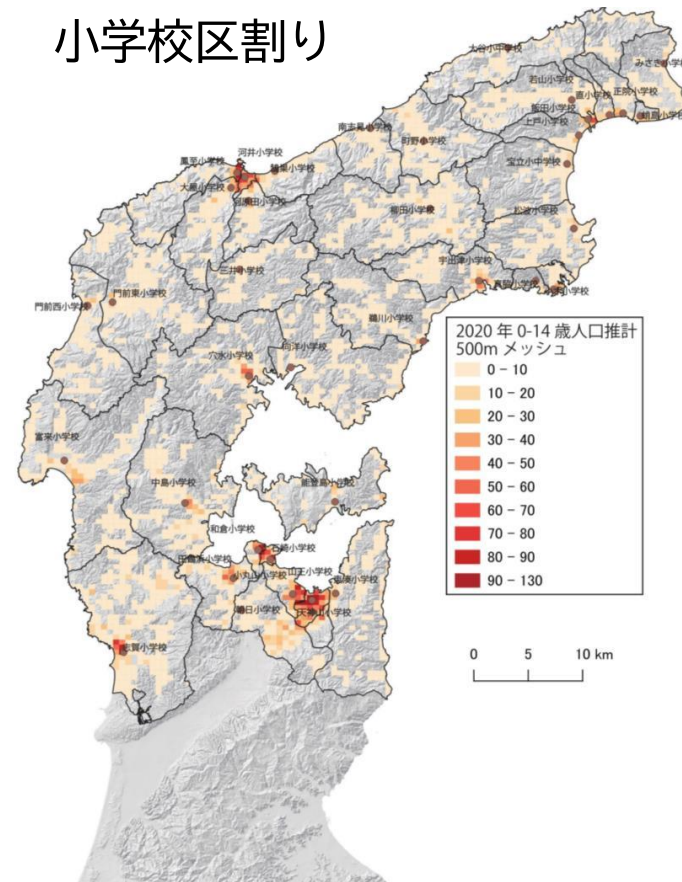
<例>

公共交通路線



出典：国土交通省「国土数値情報 バスルート (2011,2020)」
農林水産省「農業センサス」

小学校区割り



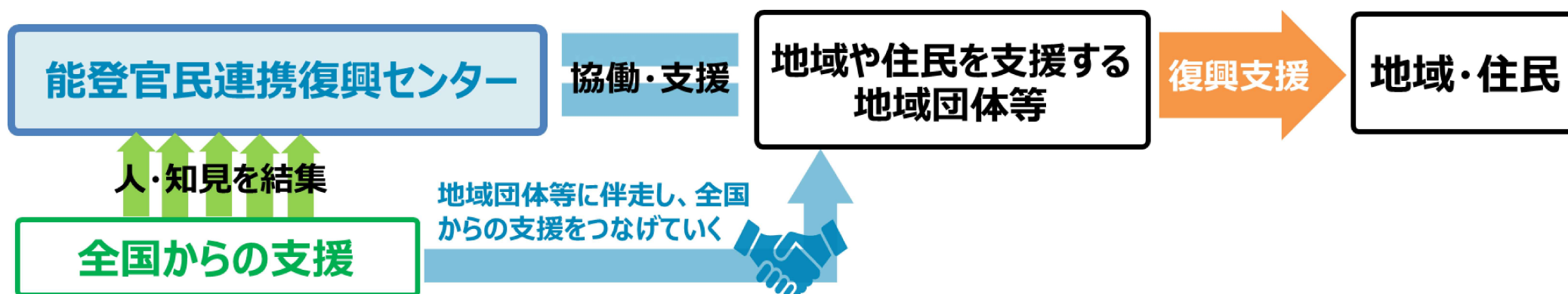
出典：国土交通省「国土数値情報 小学校区データ (2021)」
国土交通省「国土数値情報 小学校データ (2016)」
国土交通省「国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口データ (2020)」

能登官民連携復興センターの立ち上げ

- 地域団体等に伴走し、全国からの様々な支援を効果的に結びつける、コーディネータ的役割を担う組織「(一社)能登官民連携復興センター」が10月に開所



能登官民連携復興センター



能登官民連携復興センターをぜひご活用ください！

1. 能登官民連携復興センターを通じて現地を支える資金の提供（企業版ふるさと納税）

- 石川県への企業版ふるさと納税の寄付 →センターの事業費として

2. 能登官民連携復興センターへの人材派遣

- 「地域おこし協力隊」（自治体が報酬支払。住民票を移す必要あり）を募集中です
- 民間からの人員派遣（民間側が報酬支払）も大歓迎です

3. 能登官民連携復興センターへの支援オファー連絡

- 各地域の具体的なニーズや課題感を踏まえ、合致するものはマッチングを行います

事務所

のと里山空港

- ① 奥能登行政センター4階
- ② 駐車場仮設フードコート内

問合せ先

0768-23-4681

<https://notorenpuke.jp/contact/>

ふるさとの未来に挑戦する能登に、これからも応援をお願いします！

○壮大な自然が織りなす類稀な絶景と豊かな生命



禄剛崎（珠洲市）



水田に飛来したトキ

○人々が心を激しく燃やし、地域が一つになる祭り



あばれ祭り（能登町）（写真）石川県観光連盟

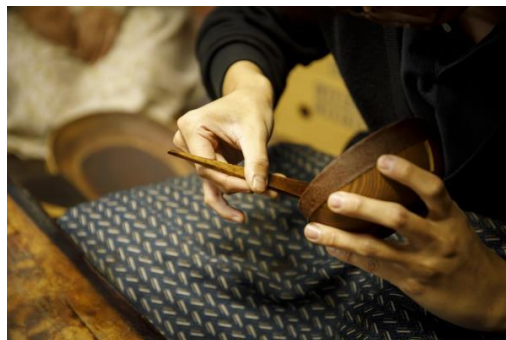


あえのこと（写真）珠洲市HP

○自然と共生する人々の、しなやかで美しい暮らしと生業



白米千枚田（輪島市）（写真）石川県観光連盟



輪島塗の制作（写真）石川県観光連盟

○おたがいのことを思いやり支えあう、人のつながり



輪島朝市（輪島市）（写真）石川県観光連盟



花嫁のれん（七尾市）（写真）石川県観光連盟

ご清聴ありがとうございました